

とても素晴らしかった 第1回讚美歌フェスティバル

7月16日（金）に、遺愛では第1回讚美歌フェスティバルを開催しました。昨年は新型コロナのために合唱コンクールは中止となり、状況的には今年も難しい気配はありましたが、形を変えて工夫して何とかできないかと、音楽科の水田先生と白須先生が知恵を絞り、「讚美歌フェスティバル」はどうかと提案して下さいました。職員会議で了承を得て、本番を迎えました。

従来の合唱コンクールは、中学生高校生あわせて800名以上全員が遺愛アリーナに集まり、午前・午後をかけて、ピアノ伴奏で各クラス課題曲（校歌か讚美歌）と自由曲の2曲を歌い、審査員を外からお招きし競い合いました。しかし今年には新型コロナ対策を考え、クラス自由選択の讚美歌1曲のみの合唱にしました。また、練習はいつもならクラスごと教室や屋外で、朝・昼練、放課後練など自由に行っていましたが、音楽の時間と特別に指定した練習場所・指定した時間でしか、できないルールにしました。またコンクール形式ではなく、賞なしのフェスティバルしました。

本番当日は、放送で礼拝と開会式を行い、10時から高2（222名）、11時20分から高1（235名）、昼食をはさんで12時50分から中学（130名）、13時50分から高3（228名）が、遺愛アリーナに学年ごとに集まり、讚美歌合唱を行いました。中学生が高3の合唱を2階ギャラリーから聴く以外は、他学年の合唱は聴けないようにし、保護者の方々の出席も遠慮していただきました。（あとで、ネットを通じて、全学年を聴けるようにしました。）合唱のときは、1人1人距離を開け、移動式ステージを組み立てて指揮者との距離を確保しました。また、合唱用のマスクを1人1枚ずつPTAの支援で購入させていただき、着用して歌いました。（そのマスクは個人所有にして、今後クリスマス礼拝、卒業式などでも使用する予定です。）

合唱は、予想をはるかに超えてとても素晴らしいものになりました。各クラス様々な工夫を凝らし、単調になりがちな讚美歌に彩りを加え、とても楽しいものになりました。オーソドックスなピアノ伴奏に合唱はもちろん、アカペラにしたり、日本語だけでなく英語をまじえたり、途中からジャズ風アレンジ、ゴスペル風アレンジを入れ、手拍子や全身を使って表現したりしたクラスもありました。楽器もピアノだけでなく、バイオリン、クラリネット、オカリナ、エレキギターなどが登場するクラスもありました。やはり、高3は凄かったです。様々な工夫をしつつも、肝腎のハーモニーがとても繊細で美しく、「天使の歌声」を聴くようでした。来年も讚美歌フェスティバルをしてほしいという声も聞こえてきています。皆さん、本当にお疲れ様でした。来週は遺愛祭です。「準備を、がんばっていきましょい！！」

2021年7月17日（土）

